

(表紙)

「人の一生

祝儀控帳

深井家

はじめに

『お七夜祝儀控』『紐直祝儀控』『結婚披露祝儀控』等は人の一生に関わる文章で、人生の節目ごとに行われた儀礼を祝って、親類・村人から贈られたお祝いの品や祝いの記録です。

収録した記録は『寛政六年(一七九四)お美恵(当家五代目の長女)紐直祝儀控』から平成元年(一九八七)真理子(当家十代目の長女)結婚披露祝儀控』までの三十六冊で約二百年間の記録です。

こうした儀礼は、古くからおこなわれていたようですが、寛政以前の記録は見あたりませんでした。

お祝いには、産着や布地のほか半紙・麻・苧(からむし)・鯉節・するめ・砂糖などが贈られていることが注目されます。

江戸時代の貨幣の表示は両・分(ぶ)・朱・疋(ひき)・文(もん)などでそれに祝儀・不祝儀の使い方があってややこしく、一文は計算の仕方で多少の相違があります。現在の十五円位に相当します。

なお、本編の随所に参考として儀礼の由来を記しました。

天和年中(一六八一〜八三)に初代伊右衛門が百間村川島(宮代町)の五左衛門家から清地村(杉戸町)へ分家して、二代目浅右衛門が享保中期(一七一六〜三五)頃旗本五千石酒井安房守家の割元名主(数ヶ村に年貢を割り当てること)をまかされた名主となり以後、「一新まで世襲し、明治期には戸長をつとめました。

目次

近世

文化七年おてるお七夜祝儀控

お七夜

文化九年磯五郎お七夜祝儀控

お宮参り

文化十二年喜司お七夜祝儀控

天保九年おさわお七夜祝儀控

天保七年伊助初着控

寛政六年お美恵紐直祝儀控

お食い初め

文化十二年おてる紐直祝儀控

文政三年喜司紐直祝儀控

嘉永六年おぬい紐解祝儀控

七五三の振り舞い

七五三の宮参り

産育

おてる婚礼祝儀控

雛祭り

天保三年喜治婚礼祝儀控

端午の節句

慶応三年おぬい婚礼祝儀控

成人式

明治

明治十年おいち祝賀聘礼大豊恵

明治十四年浅右衛門お七夜祝

仲人

蕎麦とうどんの値段

明治十四年浅右衛門端午祝覚

結納・お色直し

明治十六年伊左右治初ノ節句

〃 二十九年出産見舞(堀口義一)

〃 三十八年伊左雄出産見舞控

〃 四十一年春枝出産見舞控

綿帽子

嫁入り

明治十四年伊智紐解祝儀帳

〃 五年兵治祝儀(婚礼)控

〃 二十八年伊智祝儀(婚礼)控

〃 三十七年伊左右治結婚披露控

江戸時代の貨幣制度

大正

大正七年伊左武出産見舞控

昭和

昭和二十九年真理子出産見舞控

〃 三十一年哲夫出産見舞控

〃 五十九年むつみ誕生諸祝控

〃 六十二年智之誕生諸祝控

昭和三十六年真理子・哲夫七五三祝

〃 六十二年むつみ三才の祝

〃 十三年伊左武入宮控帳

〃 二十八年滋男結婚披露控

〃 二十九年百合子婚礼祝儀控

〃 五十四年哲夫結婚披露控

平成

平成元年真理子結婚披露控

(表紙)

文化七年

十一月二十六日

関次郎

おてる七夜祝儀控

覚

一金巻分

樽

半紙

一帯

樽

一式朱

儀兵衛殿

午次郎殿

孫兵衛殿

半紙
扇子
一 五百文

長兵衛殿

半紙三状
樽
一 産着
八丈

半紙
扇子

一 同八丈
一 同八丈

弁藏
仁兵衛

樽

一 同青梅

金差

外青梅仕立産着

清兵衛殿

一 寫木綿
産着

宝殊花
嘉右衛門

一 貳朱
半紙

五左衛門殿

一 かつおぶし
半紙

幸手

一 金壹分
半紙

兵藏殿

一 貳朱
半紙

中妻
源六

一 三拾足
半紙

上川崎
傳左衛門殿

一 扇
扇

七兵衛殿

一 金壹分
半紙

松永
惣左衛門殿

一 扇
半紙二状

かたばみや
内儀

一 三拾足
半紙

惣左衛門殿

一 扇
樽

清吉殿

十一月二十四日

一 半紙拾
麻

粕壁
勝右衛門殿

一 五拾足
半紙

伊之助

一 貳朱
半紙

同所

一 産着
寫産着

善右衛門

一 麦粉壹袋
上白壹ツ

幸手

一 半紙
樽

善右衛門

一 かみ二
せん壽

前
源六殿

一 三拾足
樽

九十郎

一 たる

直右衛門

一 式百文
半紙式状
せんす
一 式百文
半紙二
式百文
半紙
一 式百文
半紙二
外小立一
一 式百文
半紙
せんす
一 三百文
半紙
式百文
半紙
一 式百文
半紙二
せんす
一 式百文
半紙
一 三百文
樽
一 金百疋
樽
八丈御初着

あま野
菊次郎
佐竹
下
清八
式右衛門
忠右衛門
清左衛門
久二郎
惣五郎
宮内屋
連吉

半紙
小口壺本
樽
一 御初着
木綿
半紙
一 さらさ一
御おもて
一 金百疋
半紙十
麻
せんす箱
樽
一 金百疋
きぬ御初着
半紙
一 式百文
半紙
一 三百文
半紙
せんす箱
式百文
半紙
麻
一 三百文
外百文
樽代

万五
差八郎
万右衛門
左七
小平
誠右衛門
直右衛門
金子
宮仁
武左衛門
油文
小嶋

一 半紙	
一 半紙二	久八郎
樽 せんす箱	吉五郎
	喜八郎
	為次郎
一 半紙	いげたや
樽 せんす箱	正蔵
一 半紙一	端之上
一 式百文	多七
一 式百文	塩風呂
半紙二	市兵衛殿
せんす箱	
一 式百文	中づま
半紙二	喜右衛門
一 式百文	四屋
樽 半紙	藤八殿
一 式百文	喜重衛門殿
半紙	
一 式百文	
樽 麻	
一 式百文	井上
半紙	直五郎殿
せんす箱	
一 式百文	下
	留七
一 半紙二	武升
ちりめん産着	周益殿
せんす箱	

一 金巻分	四屋
一 染たん物二反	
一 式百文樽代	
一 式百疋	升屋
半紙	
一 産着代	小島
百疋	文右衛門
百文	
半紙	
一 百文	直五郎
一 式朱	大鮒や
樽	五郎衛門
一 半紙二	城村
樽	
一金百疋	道仏
半紙	
せんす	

『
お七夜

平安時代には、子がうまれるとその当日を初夜、三日を三夜、五日を五夜、七日を七夜と奇数の日にお祝いしこれを産養（うぶやしな）と称した。後世、この称もすたれ、七夜のお祝いだけが残って今日までつづいている。

お七夜には子どもに名前をつける。祖先や氏神に子どもの生年月日を報告し、子どもに名前をつけるのが命名の儀の趣旨である。

半紙をタテ二つ折りにして、出生の年月日と名前を書いた命名紙を三方にのせ、神

前と仏前に供えて、お神酒や灯明を上げる。

(表紙)

「 文化九年

磯五郎七夜祝儀控帳

九月九日四ツ時出生

十月二十七日祝儀

覚

一 八丈初着

麻

一 八丈初着

麻

一 八丈初着

扇子箱

麻

一 棧留

壹反

一 青梅小立

浦共二

一 手拭地壹反

一 百疋

かみ

午次郎殿

半蔵殿

金兵衛殿

新町

久兵衛殿

五兵衛殿

幸手

源六殿

惣五郎殿

扇子

一 貳百文

一 かみ壹状

一 貳百文

一 かみ壹状

一 貳百文

一 かみ壹状

一 貳百文

一 かみ貳状

一 貳百文

一 かみ貳状

一 せん寿

一 貳状

一 貳百文

一 貳朱

一 貳朱

一 かみ

一 麻

一 さらさ着

一 うこん裏

一 小立

一 貳朱

一 扇子

一 貳百文

一 樽

一 同貳荷

一 同貳荷

一 三百文

才次郎殿

善右衛門殿

長兵衛殿

伊之助殿

勝右衛門殿

直右衛門殿

清兵衛殿

粕壁

吉兵衛殿

杉戸

仁右衛門殿

庄右衛門殿

横町

与七殿

菊次郎殿

乙松殿

五左衛門殿

志も

とりあげ

かみ

ば、

樽

一 ちりめん

うぶぎ

小立

かま寿

たる

せん寿

かみ

一 百文

かみ

一 □□□

□□□

内牧

喜太夫殿

彦八殿

乙五郎

後家

文化十二亥年

四月八日夜九ツ半時

喜司出生七夜祝儀

胎内二十一ヶ月ニテ出生

覚

一 米貳升

一 同三升

一 鯉節貳ツ

一 鯉節壹ツ

一 同

一 七夜

一 八丈

一 小立

一 のし

一 紅染

一 単物

一 麻

一 青梅

一 うら

袖口出も共二

一 麻

一 青梅

一 のじ

一 麻

午次郎殿

内牧

金兵衛

惣五郎

物五郎

内牧

内牧

午次郎

午次郎

午次郎

午次郎

兵藏

兵藏

兵藏

兵藏

兵藏

金兵衛

金兵衛

金兵衛

金兵衛

金兵衛

金兵衛

子どもの成長を祝う儀式の一つで、生後、男児は三日目、女児は三日目に産土神（うぶすながみ・生まれた土地の神社）や氏神へ母子ともに参詣し、神前に出産を報告するとともに健康に育つことを祈る。

古くは「うぶすな参り」「初参り」ともいい、100日目に行くところもあった。

鎌倉時代初期の建久元（一一九二）年八月に源実朝が生まれたとき、十六日後にお宮参りに連れていったという記事が「吾妻鏡」にあるので、このころにはすでに一般にも行われていたと考えられる。

（表紙）

一 小立
一 式百文

隣
久兵衛
伯母殿

七月二日誕生

一 式百文
一 三百文

勝右衛門
儀兵衛

さわ一七夜祝儀控帳

かみ

深井関次郎
孫女子

扇子

一 式百文
一 寿るめ

酒屋
伊之助

覚

一 樽
一 同

善右衛門
しも

一 壹重物仕立
半紙

新町
久兵衛殿

一 鯉節
一 壹ッ

九兵衛

あさ

一 千魚

辰五郎

一 中位
生りぶし二本

前
弥之助殿

一 乳付親

おさん

半紙

一 百文

前

あさ

一 取上母

ば

一 式分
半紙

高畑
孫八殿

一 三百文
一 かみ壹状
一 五百文

一人

一 式分
半紙

新井新田

一 内牧より

一 壹分
半紙

松永

一 壹分
半紙

兵藏殿

一 壹分
半紙

幸手

一 縮緬一重
守袋

川通り
権兵衛殿

一 半紙

中山

(表紙)

天保九年戊戌

一	老分	爪田谷	一	嶋縮緬	川通り
	半紙	○ 傳左衛門殿		半紙	九八郎殿
一	老分	三本木		せん寿	
	半紙	いづみ屋	一	式百文	とうふや
	せん寿	○ 彦右衛門殿		半紙	八重二郎殿
一	嶋縮緬	内牧		あさ	
	半紙	○ 喜太夫殿	一	百文	
一	扇子				前
	嶋縮緬	横町			瓦屋
	半紙	○ 吉右衛門殿	一	式百文	前
	両々も有之候				馬之助殿
一	同断	栃木や	一	酒老升	武左衛門
	せん寿	○ 常八殿			藤次郎
	せん寿		一	金老分	さかや
	又老分			半紙	長兵衛殿
	半紙		一	老朱	際屋
	せん寿			半紙	乙松殿
一	風織縮緬	いせや	一	半紙	店
	老重物	平次郎殿		せん寿	たびや
	半紙五			百文	安次郎
	せん寿		一	半紙五状	文右衛門
	金百疋	井桁屋		樽老荷	幸助
	上半紙式状	半蔵殿		あさ	市兵衛
一	扇子	松永屋			直右衛門
	鳴八丈	惣五郎殿			幸七
	扇子		一	式朱	井桁や
	あさ			半紙	平蔵殿
一	半紙老	野田屋		扇子	
	せん寿	吉五郎	一	式百文	かじや
	あさ				

一	半紙	清左衛門殿
一	貳百文	たびや
一	半紙	本七殿
一	貳朱	油屋
	半紙	藤藏殿
	あさ	
一	縮緬老重物	川ばた
	半紙	○清五郎殿
	貳朱	
	せん寿	
	半紙	
	あさ	
一	百文	屋根や
	半紙	辰之助殿
	あさ	
一	三百文	国田屋
	半紙	長吉殿
一	百文	てうちん屋
	半紙	武兵衛殿
一	百文	店
	半紙	はた屋
	せん朱	与惣藏殿
	半紙	くわしや
	あさ	平右衛門殿
一	貳朱	三本木
	半紙	いづみ屋
	半紙	彦右衛門殿
	半紙	音藏殿
一	貳百文	杉戸
	半紙	

一	半紙	ふじや
	あさ	清次郎殿
一	三百文	としまや
	半紙	式右衛門殿
	せん寿	
一	貳朱	濱田屋
	半紙	六左衛門殿
一	壹分	横町
	半紙	吉右衛門殿
一	貳百文	天野
	半紙	権右衛門殿
一	百文	野屋
	半紙	重右衛門殿
一	貳百文	村
	半紙	伊之助殿
一	三百文	清地
	半紙	直五郎殿
一	壹朱	桜屋
	半紙	伊之助殿
	あさ	よこ町一のや
	半紙	政吉殿
一	壹分	いせ屋
	半紙	吉右衛門殿
	半紙	中妻左官
	半紙	常七殿
一	貳百文	いづみ屋
	半紙	弥兵衛殿

一 老朱

半紙

山中

次兵衛殿

此分并桁屋より おまつ

□□□

久蔵遣

□□□代

金三両ト

錢三貫三百文

外三貫百文

外〇印

金貳両也

是ハ

惣領伊助の節

同人相果候二付

二女之祝ひ儀之

返礼之義ハ二度

之処江者相応ニ

義理可相勤候

入用控

二十六日分

一 貳百五拾六文

二十七日

一 三百文

一 錢老貫六百拾貳文

餅米五升貳合

うる米と取替之積リ

同日朝二十日晦日ニ□□

一金三分 □

二十六日分

一金老分老朱

ト六文

是ハ□□□□

二十八日

一 貳朱ト

半紙

扇老対

二十九日晦日相払候

百文ニ八ツ

一 玉子三十

三百七十二文〇

二十八日

一 貳百文〇

一 貳百五十文〇

一 十六文〇

一 四十文〇

一 三十六文〇

一 百五十文〇

一 五十文〇

一 百文〇

一 四十文〇

久蔵遣

□□□代

同人へ

吉五郎

妻へ

祝儀

橋本

幸八

久蔵

酒老升

としまや

塩三升

□

そばや

うどん

いも

よこ町

うどん代

正油老升

白砂糖

みそ代

政五郎

油

龜朶老杷

白餅米老斗

孫平世話

川はた

清五郎より

日野屋

一 六十四文〇
一 百文〇

一 百文〇
一 百文〇

一 三百文〇
是ハとしまや分
一 貳百文〇

晦日分
一 貳百文

一 壹朱
四百十六文〇
一 壹貫四百三拾貳文〇

七夜晦日相渡ス

七夜晦日
一 八百五十文〇

常八へ渡ス
一 二百五十文〇
一 〇

七夜晦日相渡ス

〃
よこ町

下女へ
小遣へ
兩人へ
□□□□

川通り

弥市殿へ

小遣方
出し候分
隣□□

国田屋

長吉方

井桁屋
□久蔵
栃木屋

常八方
□□代
政五郎
伊勢屋

長兵衛殿
方
酒老升代
係
又五郎

七夜晦日渡ス
一 壹貫六百拾貳文〇
是ハ餅米壹斗代

二十七日
一 三百文〇

晦日払

一 壹貫百文〇

七夜晦日渡ス
一金貳両

是ハ庄兵衛分
内渡し

まんぢゅうや
弥兵衛殿

□とめ

そだ
壹駄

松永屋

惣兵衛方
肴代

係久蔵
栃木屋

常八へ

硯蓋

午房

切いか

ゆり

小しいたけ

長いも

玉子

なし

取肴

金平

〃

〃

〃

薄味噲
吸物

□□□

ぬた
なまりぶし

「 天保七年

正月十二日出生

伊助初着控

去十二月二十五日杉戸宿より類焼

小右衛門村権兵衛方ニ而出産

深井氏

」

うどん

□□

ねぎ
青柚

大年の市の日夜半の頃隣宿出火折しも西風はげしく、燃えて丸焼闇に入りし心地にて年頭むかえる中にて、五輪五情をたもつ梅にして備わる源をとふけ千歳の代の榮るもとなりと。

(裏表紙)

七月

二十八日

一 □□□

九百文

十□味□菓

□

小□

□□

□□

□□□□□□

天野へ

くらやみも

またたのみあり

梅の花

右 梅鶯亭

二楽

一 壹朱 菖蒲刀代

半紙

一 壹朱 同断

覚

一 巾着壹ツ

いせや

吉右衛門殿

栃木や殿

御屋敷様

(表紙)

一	金百疋	原田藤四郎殿	一	嶋ちりめん	栃木や
一	半紙十状	幸手	一	おもて ふとんわた	
一	金百疋	中山	一	半紙 あさ	
一	絹小紋表	松永屋			
		兵藏殿			
		日本橋			
		野本不流殿			
一	金百疋	高畑	一	寛政六寅年	
一	金百疋	孫八殿			
一	銀貳朱	新井新田			
		松永屋			
		藤藏殿			
		中山			
一	貳百文				
	きんちやく				
	小半紙十状				
一	金貳百疋	川通	一	八丈寫本立	粕壁町
	半紙 扇子	九八郎殿		扇子	吉兵衛殿
一	縮緬老重	同所		たる	
	金三百疋 のぼり代	権五郎殿	一	八丈寫	深輪
	半紙 あさ	川ばた		小立表	忠藏殿
一	金百疋	清五郎殿	一	広物小立	百間
	半紙	爪田谷			は、
	金百疋	富藏殿	一	上代染帯	粕壁町
	太織ふとん表	三本木いづみや		六尺五寸	安左衛門殿
		粕壁宿さのや	一	貳百文	油屋
		又兵衛殿	一	樽	与市殿
一	嶋縮緬表	横町	一	酒老升	中妻
	うら わた そで口共付	吉右衛門殿	一	木綿極上	惣右衛門殿
					勝右衛門殿

(表紙)

霜月二十四日

お美恵紐直祝儀

手織模様縁

樽

一 八丈寫帶

表

一 同小立

扇子

一 百文

酒壺升

一 たび式足

百文

一 足袋老足

め指式十

丈長□□

たる

一 足袋

かみ

一 上白老反

樽

一 寫老反

樽

一 式百文

式朱

一 扇子

紙式状

喜右衛門殿

梅鉢屋

伊兵衛殿

忠右衛門殿

長五郎殿

乙五郎殿

九十郎殿

清八殿

留七殿

八百屋

庄一郎殿

利一郎

次三郎

宗女

源右衛門

次郎

庄次郎

一 金百疋

□□□□

樽

一 酒壺升

一 鳥目式百銅

一 式百銅

一 上白老足

一 扇子

一 酒壺升

一 三百文

一 紙

樽式荷

一 式朱

樽式荷

一 三百文

樽式荷

半紙老状

一 大だこ老ばい

六日

一 式百文

一 □□□□

くし かうがい

花かんざし

式百文

一 上衣

七兵衛

伊勢屋

平次郎殿

中妻

六兵衛殿

三郎兵衛殿

庄二郎殿

仁左衛門殿

いづみや

彦右衛門殿

久右衛門殿

はたや

六左衛門殿

式右衛門殿

道右衛門殿

道右衛門殿

長兵衛殿

下

音蔵殿

下

文右衛門殿

道仏

道仏

道仏

道仏

道仏

一	樽			
一	小半紙五状	幾五郎殿	足袋	市兵衛殿
一	ざっこ	ふかわ	半紙	半七殿
一	母	三次郎殿	樽	
一	百文	大工	樽	利右衛門殿
一	百文	清右衛門殿	樽	次助殿
一	百文	新町	紙	
一	百文	久次郎殿	紙	
一	百文	同	金巻分	佐兵衛殿
一	百文	久五郎殿	かみ	
一	百文	彦七殿	樽	武左衛門殿
一	百文	茂右衛門殿	樽	佐助殿
一	百文	七五郎殿	樽	
一	百文	清右衛門殿	半紙	武右衛門殿
一	百文	二郎兵衛殿	樽	
一	百文	平右衛門殿	紙	下
一	百文	五左衛門殿	紙	清五郎殿
一	百文	八十殿	樽	町
一	百文	弥市殿	樽	平右衛門殿
一	百文	庄五郎殿	樽	紙屋
一	百文	伊右衛門殿	樽	三右衛門殿
一	百文	弥右衛門殿	樽	町
一	百文	上宿	樽	程二郎殿
一	百文	権右衛門殿	樽	肴屋
一	百文	甚五郎殿	紙	彦右衛門殿
一	百文	内店	紙	町
一	百文	内店	紙	新六殿
一	錢貳百文	内店	紙	はたや

樽

一 式百文

清地新町

一 足袋巻足

喜右衛門
九兵衛殿

一 三百文

いづみや

一 半紙

彦右衛門殿

一 式百文

下

一 五百文

重右衛門殿
直五郎殿

紙

扇子

一 式百文

新町

一 式朱

五左衛門殿

一 式朱

和田

一 式朱

次兵衛殿

一 式朱

上総屋

一 式朱

幸次郎殿

一 式百文

惣右衛門殿

一 式百文

秀右衛門殿

一 式百文

七右衛門殿

紙

一 百文

中妻

一 百文

由右衛門殿

一 式朱

至宝院

一 式朱

幸手

樽

お食初め

子どもが生まれて一〇〇日か一二〇日目にはじめて固形物（ご飯）の食事をさせる祝いが「お食初（くいぞ）め」で江戸時代の武家社会にはじまった。

当日は繁昌する市場へ行って白もちを五個買い、それを祝いの膳につけて子どもに食べさせた。

実際は食べるまねをするだけだが、もちは「歯固め」ともいって子どもの歯を丈夫にするまじないである、

離乳食のはじまりといえようか。

（表紙）

「文化十二亥年

十一月二十五日

おてる

紐直祝儀控

覚

一 縮緬小立

金兵衛殿

麻

半紙二状

一 板縮緬

新町

小立

久兵衛殿

麻

扇子

一 鳥目五拾疋

直右衛門殿

一	紙一	吉蔵	半紙二	直右衛門
一	三百文	山中	麻	
一	紙二	清左衛門	一 南鐮一片	中妻村
一	式百文	ゆうや	紙二	七兵衛
一	紙二	久左衛門	樽	
一	三百文	大和屋	一 三百文	下ノ町
一	扇子 紙二		半紙二	幸七
一	五百文	佐左衛門村		喜七
一	扇子	直右衛門		松蔵
一	外二百文			藤蔵
一	式百文	下ノ町		いし
一	紙一	藤右衛門		清五郎
一	外二式百文			三本木
一	式百文	店	一 百文	小八
一	三百文	おいと	一 三百文	上ノ町
一	紙二	池ノ上	半紙一	しも
一	式百文	天野	一 三百文	小島屋
一	式百文	下ノ町	半紙二	文右衛門
一	式百文	山本屋	扇子箱	
一	式百文	梅屋店	一 式百文	上ノ町
一	八丈じま	留五郎		馬之丞
一	半紙二	梅鉢屋	一 式百文	ふじや
一	せん寿	義兵衛	半紙壹	藤蔵
一	三百文	泉屋	一 三百文	たびや
一	半紙二	善八	半紙二	幸蔵
一	式百文	釜屋	樽	
一	半紙二	安左衛門	一 式百文	下
一	式百文	梅屋店	半紙壹状	留七
一	式百文		せん子箱	

一	式百文	店	一	三百文	下
一	半紙一	金蔵	一	半紙二	市兵衛
一	式百文	店	一	三百文	油屋
一	半紙一	乙吉	一	半紙二	文蔵
一	五百文	下ノ町	一	せん子箱	松永屋
一	半紙	清左衛門	一	金式百疋	惣五郎
	せん子箱	吉右衛門	一	半紙二	かざりや
一	樽	八兵衛	一	式百文	かざりや
	さかな	権兵衛	一	半紙二	武左衛門
		中つま	一	式百文	くわしや
		いづみや	一	半紙一	平左衛門
		大工	一	金百疋	門之丞
一	百文	中つま	一	半紙二	久右衛門
一	半紙	久左衛門母	樽		清兵衛
一	式百文	たたみや			長吉
		惣兵衛			金兵衛
一	式百文	乙五郎			つね
		後家			八兵衛
一	式百文	来迎院			原蔵
		内坊所			作右衛門
一	五百文	清地			吉右衛門
		直五郎			由三郎
一	せん子箱	清地			惣五郎
一	半紙二	玄庵			きの
一	南鐮一片				喜三郎
一	せん子箱				竹右衛門
一	半紙二				幸兵衛
一	百文	店			庄兵衛
		初五郎			

一	金百足	万五郎	かみ	庄次郎殿
一	せん子箱	ふみ	木綿嶋一反	内牧
一	樽	べ十九人	せんす	与七殿
一	式百文	宝珠花町	一 式百文	同
一	五百文	幸右衛門	半紙	同
一	金百足	杉戸宿	一 式拾疋	要右衛門殿
一	半紙二	さのや	半紙	吉蔵
一	あさ	上宿	一 百疋	粕壁
一	金百足	惣右衛門	半紙	勝右衛門
一	半紙二	宮内屋	麻	同所
一	麻	庄吉	一 式朱	同所
一	式百文	島内屋	半紙	次郎衛門
一	半紙二	仁右衛門	せん寿	新町
一	三百文	かじや	一 式百文	新町
一	半紙二	たるや	半紙	源六
一	金百足	門太郎	一 百文	新町
一	かみ	佐吉	半紙	三五
一	せんす	三本木	せん寿	左七
一	赤色ちりめん	横町	一 五五文	佐左衛門村
一	樽	吉右衛門殿	半紙	幸助
一	金百足	内牧	扇子	珠屋
一	南鐮一片	内牧	一 半紙五状	半右衛門
			樽壹荷	常七
			一 式拾疋	
			半紙二	
			一 式拾疋	
			まんじゅうや	

(表紙)

「 文政二年

喜司紐直祝儀控帳

辰十一月

覚

- 一 黒紋付
- 一 小紋小袖
- 一 木綿
- 一 小たち裏表
- 一 黒八羽織り
- 一 かみ
- 一 あさ少
- 一 寫ちりめん
- 一 小たち表
- 一 金式朱
- 一 かみ
- 一 せんす
- 一 するめ
- 一 式朱
- 一 かみ
- 一 せんす
- 一 寫ちりめん
- 一 小たち表
- 一 丈出来上り三尺三寸

- 内牧
- 喜太夫
- 新町
- 久兵衛殿
- 下
- 金兵衛殿
- 粕壁さのや
- 又兵衛殿
- 粕かへ
- 吉兵衛殿
- 同所金子や
- 仁右衛門殿
- 粕壁
- 国田屋
- 七左衛門殿

- 一 袖八寸
- 一 せんさいちや寫地
- 一 かみ
- 一 あさ少
- 一 南鐙一片
- 一 式百文
- 一 式朱
- 一 半紙式状
- 一 三百文
- 一 半紙式状
- 一 じゃのめ
- 一 傘老本
- 一 半紙式状
- 一 三百文
- 一 かみ壹状
- 一 式百文
- 一 半紙式状
- 一 百文
- 一 三百文
- 一 半紙壹状
- 一 麻少し
- 一 三百文
- 一 〇〇〇
- 一 〇〇〇
- 一 式百文
- 一 半紙壹状

- いげたや
- 半蔵殿
- かがや
- 松五郎殿
- 嶋中新井
- 善右衛門殿
- いせ屋
- 太右衛門殿
- かしや
- 万次郎
- 伊之助
- 前
- 八五郎
- 武左衛門
- 寺
- 房殿
- 乙松殿
- 肴屋
- とうふや
- 卯之助
- 幸助

一	五百文	杉戸	一	三百文	弥兵衛
一	五百文	源次郎	一	半紙貳状	
一	五百文	ふじや	一	貳百文	藤右衛門
一	かみ壹状	彦六	一	半紙貳状	
一	三百文	清地	一	半紙貳状	左吉
一	かみ貳状	直五郎殿	一	麻少	留次郎
一	貳百文	要助	一	樽	佐七
一	金百疋	いせや	一	貳百文	馬之助
一	かみ貳状	午次郎殿	一	貳百文	金兵衛
一	貳百文	せんす	一	金百疋	忠右衛門
一	かみ壹状	山中	一	貳百文	惣五郎
一	三百文	清左衛門殿	一	半紙貳状	
一	半紙貳状	梅鉢屋	一	樽	
一	貳百文	伊兵衛殿	一	せつた	幸手裏宿
一	百文	川寫	一	老足	田中
一	貳百文	留五郎	一	五百文	酒屋
一	半紙貳状	傳右衛門	一	かみ壹状	長右衛門
一	貳百文	菊五郎	一	扇子箱	文藏
一	半紙貳状	長之助	一	貳百文	権右衛門
一	貳百文	とき	一	半紙貳状	
一	貳百文	ばゝ	一	包	池ノ上
一	三百文	万吉	一	三百文	庄次郎
一	半紙貳状	川嶋	一	三百文	やおや
一	貳百文	清五郎	一	半紙貳状	勝右衛門殿
一	半紙壹状	直右衛門	一	樽	いつみや
一	扇子箱		一	貳百文	弥兵衛
一	貳百文	圓次郎			くわしや

一 三百文
 半紙貳狀
 反物壹反
 一 五百文
 樽
 一 貳百文
 一 五百文
 半紙貳狀
 扇子箱
 一 五百文
 半紙貳狀
 扇子箱
 一 貳百文
 一 貳百文
 一 貳朱
 せん子
 半紙貳狀
 一 三百文
 半紙貳
 一 五百文

午藏
 吉田屋
 吉藏
 幸手
 源六殿
 式右衛門殿
 瓦屋
 後家
 中屋
 橋屋
 新町
 又五郎殿
 小寫
 文右衛門殿
 玄藏
 宮仁
 儀右衛門殿
 由兵衛殿
 幸七殿
 横町

半紙貳狀
 一百文
 一百文
 一包
 一 貳百文
 一 貳百文
 半紙貳狀
 麻少
 一 金百疋
 半紙貳狀
 扇子箱
 一 三百文
 半紙貳狀
 一 百文
 金卷両貳分
 拾貳貫八百文
 一 百文
 (表紙)
 文政三年
 喜司紐直諸人用控帳

辰十一月

吉右衛門殿
 清兵衛殿
 後家殿
 たたみや
 惣兵衛殿
 一席方
 市兵衛殿
 八藏
 儀兵衛
 直五郎殿
 音藏殿
 いせや
 午藏

(表紙裏)

一 餅搗人足
十五人

諸色

七十八文

覚

白米
餅米
外二
一 小豆
一 白粉
一 四百文
一 貳百文
一 百文
一 百文
一 貳百文
一 百文
一 四貫百四拾八文〇

とうふ三丁

壺石貳斗
粳白米四俵
壺斗九升
七升
小間物
八蔵
番人
源次郎
息子
粕壁
子供貳人
内牧
子供
江戸
肴

一 貳貫百八拾八文〇

一 壹貫六百三拾貳文〇

一 三百拾六文

一 貳百八拾四文

(表紙)

一 庚嘉永六年

ぬい紐解進物並献立控

丑十一月十七日

十八日

嘉永六年丑十一月十七日

ぬい紐解客来控

一 貳百文 紙貳状
しら賀
一 三百文
紙貳状 麻
一 金貳朱也
紙貳状 しら賀
一 貳百文

酒屋

長兵衛

八百屋

払

いげたや

栃木や

八百屋

庄次郎

松市

幸七

伏見や

藤次郎

惣次郎

紙貳状
しら賀

一 金貳朱也

紙貳状
しら賀

十八日

一 貳百文

一 錢貳百疋

紙貳状
しら賀

一 紙貳状

貳百文

十八日

一 貳百文

半紙二

一 紙壹状

貳百文

一 百文

紙貳状

一 貳百文

紙貳状

しら賀

一 たび

半紙

一 百文

紙壹状

一 紙壹状

下之町

一 百文

一 百文

虎屋隠居

大寿院

政五郎

江戸屋

藤太郎

文次郎

仙次郎

熊次郎

来迎院

久七坊

継蔵

おきよ

此分先二

断き

一 紙壹状

貳百文

しら賀

一 百文

一 百文

一 百文

一 貳百文

一 紙貳状

貳百文

しら賀

一 紙貳状

貳百文

しら賀

一 百文

一 貳百文

一 貳百文

一 貳百文

一 貳百文

一 貳百文

半紙二

あさ

一 金貳朱也

紙貳状

しら賀

以前断

一 貳百文

十八日

おやい

忠次郎

寺之前

栄吉

〃

熊次郎

おはな

金右衛門

幸蔵

茂三郎

丑松

鋪

重五郎

十五郎

直五郎

作兵衛

立益

一 金百足
一 扇子式本
一 紙五状
一 金式朱也
紙式状
しら賀
先二断き
一 式百文
一 式百文
一 式百文
紙壹状
あさ
一 錢五百文
紙式状
しら賀
十八日
一 百文
半紙一
十八日
一 百文
十八日
一 式百文
半紙三
十八日
一 金式朱也
紙式状
扇子
十八日
一 式百文

長左衛門
式右衛門
大松
文右衛門
留五郎
要吉
幸助
与左衛門
源兵衛
善五郎
おつけ
幸八
川嶋
権五郎
八藏

半紙二
一 五百文
紙式状 白髪
一 式百文
一 金式百足
紙式状 しら賀
十八日
一 百文
半紙一
十八日
一 百文
半紙一
十八日
紙壹状
式百文
しら賀
一 式百文
紙壹状
一 百文
紙壹状
一 紙壹状 麻
式百文
先二断き
先二断き
一 紙式状
式百文
一 百文
半紙一

初五郎
藤吉
六左衛門
喜佐親方
おその
弥吉
政四郎
吉左衛門
肴屋
藤次郎
嘉七
治郎吉
せんべいや
泉市
豊屋幸七

一 金貳朱也

湯屋は、
後家

一 縮緬老反
しら賀

至宝院

先二断き

のぶ
おきえ

尤ぬい官参りの節
老分遣もの也

一 三百文

直左衛門

一 三百文

玄良

半紙二

あさ

半紙二

一 金貳朱也

市兵衛

一 金貳朱也

儀兵衛

紙貳状

紙貳状 扇子

十八日

市野屋店

一 五百文

井桁屋

一 百文

卯七

紙貳状

久蔵

一 百文

喜右衛門

一 金貳分也

惣右衛門

半紙一

善兵衛

紙貳状

一 貳百文

常八

一 金貳百疋

太右衛門

紙老状

一 金三百疋

山中

紙貳状

紙貳状 白髪

治兵衛

一 錢三百文

越後屋

紙貳状

しら賀

紙貳状

久蔵

清地新町

弁天坊

一 五百文

小間物や

十八日

文蔵

紙貳状

長蔵

一 錢貳百文

文蔵

しら賀

多吉

紙貳状

一 金壹両也

多吉

あさ

十八日

一金式朱也

紙式状

しら賀

十八日

一 錢三百文

紙式状

しら賀

十八日

一金式朱也

半紙二

しら賀

一金式朱也

紙式状

あさ

一金式朱也

紙式状

しら賀

一金百疋

紙式状

あさ

十八日

一金壹分也

紙五状

十八日

一金壹分也

紙式状

しら賀

一金式百疋

紙式状 白髮

一金壹分也

縮緬壹反

十八日

金式朱

紙式状

扇子

十八日

一金式朱

紙式状 しら賀

一 五百文

紙式状

十八日

一 五百文

一金式朱也

紙式状 白髮

十八日

一 三百文

半紙一

十八日

一金式朱也

紙式状

十八日

一金式朱也

紙式状

十八日

一金式朱也

釜屋

吉左衛門

六左衛門

川通り

権兵衛

淳司

中妻

藤重郎

長五郎

喜七

久左衛門

七兵衛

源右衛門

たびや

盛田屋

庄助

蔦屋

吉兵衛

伊勢屋

長兵衛

紙貳状
十八日
一 貳百文
半紙二
一金百疋
紙五状 白髪
一 貳百文
半紙二
十八日
一 金貳朱也
紙貳状 扇子箱
十八日
一 金壹分也
紙貳状
扇子
十八日
一 金壹分也
紙貳状
しら賀
十八日
一 金貳分也
紙貳状
しら賀
一 金壹分
紙貳状
しら賀
一 紙五状

庄左衛門
新人
彦右衛門
万福寺
清吉
依屋
安兵衛
仁右衛門
吉兵衛
平兵衛
卯兵衛
八丁目

扇子
するめ
波色紋縮緬裏附小袖巻
一金貳百疋
紙貳状
扇子
一 三百文
紙三状
十八日
一 金百疋
紙貳状
一金百疋
紙五状
一 五百文
半紙二
あさ
十二月十七日
女中衆子供客
献立
一 冷酒
一 吸物
鳥り

重郎兵衛
内牧
喜大夫
勇八
ふかわ
弥五衛門
蛭子村
仲次郎
平野村
利右衛門
嘉吉
治郎吉
幸右衛門
きい
ち世

一	刺身	鰯
一	焼物	ぶり あられ 生が
一	酢蛸 加一敷	細根大根 かつら 生が
	とり さかな	
一	吸物	さより 房風 あられ
一	大皿	むきみ ぬた
		みかん はぜ たこ 板
一	硯蓋	長くわい 蓮根 長いも
		白滝 みつ葉

一	平	大くわい 大椎茸 切身
一	坪	長いも たこ いか
一	猪口	はぜ ゆり
一	汁	つみ入 青み
		ぶり うご 房風 狸々 白髪大根 生が
一	生酢皿	もやし 生が
	本膳	
	加一敷	毛大根 うご わさび もやし 生が

一 引物

板
みつ葉
いか
石もち

同十八日 四ツ時
旦那方客来

献立

一 冷酒

一 吸物

鳥り
白滝
みつ葉

一 硯蓋

芝えび
生がい
蓮根
ちくわ
みかん
たこ
大くわい

一 大皿

むきみ
ぬた

一 吸物

房風
あられ
すすき

一 猪口

生いか
蓮根

とり さかな

一 酢蛸

細根大根
かつら
生が

加一敷

一 焼物

房風
ぶり
あられ
生が

一 刺身

加一敷

鰯
毛大根
うご
わさび
もやし
生が

本膳

一 生酢皿

もやし
生が

白髮大根

猩々

房風

うご

ぶり

つみ入

青み

生いか

ゆり

長いも

たこ

えび

大くわい

大椎茸

切身

いた

みつば

いか

石もち

嘉永六年丑

十一月十八日

一金貳朱也

紙貳状

祝儀

杉市

使 鑄掛屋

弥兵衛

同

一 貳百文

白米五合

あんびん貳ツ

番人

貳人

官参りの節

一 百文

一 百文

一 四十八文

一 四十八文

一 百文

一 百文

一 百文

一 百文

吉右衛門

吉兵衛

文右衛門

儀兵衛

平次郎

政次郎

六左衛門

常八

直五郎

八百文

同十八日夜勝手客
有合之品

金八兩ト

錢拾壹貫貳百文

内金壹分

至宝院

宮参リ之節

十七日

金七兩三分ト

錢拾壹貫貳百文

十八日

金三兩三分貳朱ト

錢四貫文

同

金拾壹兩貳分貳朱ト

錢拾五貫貳百文

一金壹分ト

錢百八十八文

小豆

壹斗五升

此外入用帳江記ス

〚

七五三の振舞い

七・五・三の數に基ずいて、本膳には七采（七色のおかず）をつけ、二の膳は三采をつける。

これを「七五三の振舞い」と言った。